

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

市町名	大崎上島町
所属名	健康福祉課
担当者名	池田美果
連絡先(電話)	0846 - 62 - 0330

タイトル	基本施策１－（２） 健康づくりと介護予防の一体的な推進
区分(あてはまるものにチェックを)	☒ 自立支援、介護予防、重度化防止 ☐ 介護給付費等適正化

現状と課題			
令和５年度から後期高齢保険が主体となった健康づくりと介護予防の一体的実施事業を開始し３年目となった。一般介護予防事業との連携や通所Ｃ事業との連携は進みつつあるが、国民健康保険や社会保険との連動が未着手である。また、開始した事業により、口腔機能や栄養状態の詳細が把握できるようになった。 令和７年度の実施結果からたんぱく質の適正摂取は改善傾向にあるが、まだたんぱく源を３食摂取できていない人は４割であり課題が残る。また、口腔フレイルが疑われる人は４割弱で増加傾向にある。筋肉量の低下者が２割、下肢筋力低下者が６割となっており引き続きフレイル対策が必要である。			
第９期（令和７年度）における具体的な取組			
ポピュレーションアプローチ：いきいき百歳体操会場 31 か所に 2 回介入 (1 回目)フレイル状態の把握（体力測定、筋肉量・体脂肪率測定、後期高齢者の質問票＋SRC-F＋栄養 5＋口腔 1 の自己記入式質問票を実施。） (2 回目)健康相談・健康教育（個別結果票（総合・栄養・16 会場は歯科も含む）を作成し、個々に説明しながら返却。15 会場はたんぱく摂取の栄養講座、16 会場は口腔フレイル予防講座を実施） ハイリスクアプローチ 低栄養（訪問または個別面談）、口腔フレイル予防講座(7 回コース)、健康状態不明者訪問、高血圧未治療者受診勧奨			
目標（事業内容、指標等）			
	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
ポピュレーションアプローチ（フレイル状態の把握）	333 人	335 人	340 人
ポピュレーションアプローチ（健康相談・健康教育）	346 人	350 人	350 人
口腔機能低下者割合	30.0%	28.0%	25.0%
たんぱく質 3 食摂取者割合	43.0%	50.0%	60.0%
口腔フレイル予防講座 実施数	8 人×7 回	10 人×7 回	10 人×7 回
低栄養、または身体的フレイル実施数	2 人（低栄養）	3 人（身体）	3 人（身体）
高血圧未治療者受診勧奨率	100%	100%	100%
目標の評価方法			
年度末実績、自己記入式質問票の集計、口腔フレイルアセスメント結果、			

取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)

(実績評価)

実施内容		
	令和7年度	
ポピュレーションアプローチ（フレイル状態の把握）	360人	31会場
ポピュレーションアプローチ（健康相談・健康教育）		
栄養講座「たんぱくちょい足しの工夫」	199人	15会場
歯科講座「口腔フレイル」	157人	16会場
口腔機能低下者割合	38.6%	
たんぱく質3食摂取者割合	56.1%	
口腔フレイル予防講座 実施数	7人×7回	
低栄養、または身体的フレイル実施数	3 (身体的フレイル・TUG 基準値以上)	訪問3
高血圧未治療者受診勧奨	100%	7人
自己評価結果 【○】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)		
概ね計画通り実施できた。		
課題と対応策		
たんぱく質の適正の対策は令和5～7年度の取り組みにより、フレイル予防にはたんぱく源が必要という啓発は浸透してきた。引き続き啓発と具体的な実践の工夫を普及する。 口腔フレイルについては、令和6～7年度のポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチで口腔フレイルという概念や自己の口腔フレイルの状態チェックまでの啓発はできたが、効果がみられるまでには至っていない。引き続き、ハイリスクアプローチを強化して個別対応としての取り組みが必要。 高血圧未治療者の受診勧奨については、引き続き受診の確認と再勧奨、または健康状態の把握など継続的な取組が必要。		

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」